

# お天気解説 アキラのズバツと

温暖化による影響シリーズ  
「海洋と大気は相互関係」その3

## 季節予報の見かたと利活用

令和5年11月17日  
江戸川区気象防災アドバイザー 藤井 聡

秋もさらに深まってきました。先日、東京都心では木枯らし1号が観測され、もう冬の到来を感じるようになりましたね。鍋物が美味しくなる時季です。

さて、気象庁発表の季節予報から、今度の冬の気温について「高い確率が60%」と申しましたが、どんな意味があるのか説明しましょう。

気象庁では、1991年～2020年の30年間の気温や降水量などの観測値を、11番目から20番目までの範囲を「平年並」として、それより低い値は「低い」、高い値は「高い」と定めています。

おでんやかき氷、エアコン、季節の衣料など気温の上下で売り上げが大きく変化します。この11月上旬のように最高気温が25℃(夏日)前後の日が続いていたときはおでんなんて食べたいとは思いませんでした。でも、急に寒くなった中旬からおでんの売れ行きは好調になりました。

そこで、季節予報(気温・降水量・日照時間・日本海側の降雪量)を活かして、売れ行きを予想し商品を準備する手法の研究が進められています。季節の気温予想に合わせて在庫を調整し、予想通りになれば売り上げアップにつながるのです。また、日本海側の降雪はス

キ一場の来場者数や、道路の除雪費用にも関わ

り、夏の気温は農業、熱中症の救急搬送や電力の需要供給を左右するので、季節予報はリスク管理にも活用できます。

江戸川区では小松菜の栽培が盛んで一年を通して出荷されていますが、冬場は雑煮などの野菜として特に消費が多くなっています。寒い夜はやっぱりコレ!が美味しいですね。

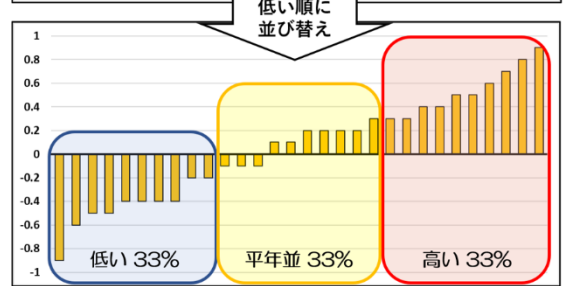
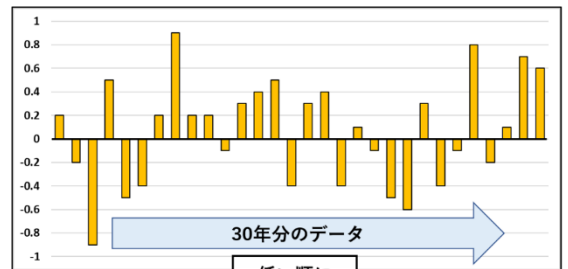


図 気象庁HP 季節予報「3つの階級について」を一部加工

週末のお天気			
2023年11月17日05時 気象庁 発表			
日付	今日 17日(金)	明日 18日(土)	明後日 19日(日)
東京地方	雨後晴 	晴時々曇 	晴時々曇 
降水確率(%)	-/90/50/10	20/10/10/0	20
信頼度	-	-	A
東京 気温 (℃)	最高	16	18 (16~20)
	最低	-	10 (7~10)

### 東京地方の週間天気予報より

気象庁HPから抜粋

(週末から平年並み程度の寒さなりそうですね。)

次回の温暖化による影響シリーズは、「この冬の季節予報」です。